

2019年4月23日

株式会社インプレスR&D

<https://nextpublishing.jp/>

フィルムカメラの愛好者におくる
『超簡単フィルムのデジタイズ ニコン D850 の活用法』発行
大切なフィルムをデジタル化して保存する方法

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D は、『超簡単フィルムのデジタイズ ニコン D850 の活用法』(著者:山野 泰照)を発行いたします。

『超簡単フィルムのデジタイズ ニコンD850の活用法』

<https://nextpublishing.jp/isbn/9784844396932>



著者:山野 泰照

小売希望価格:電子書籍版 2,000 円(税別) / 印刷書籍版 2,600 円(税別)

電子書籍版フォーマット:EPUB3 / Kindle Format8

印刷書籍版仕様:A5 判 / モノクロ / 本文 176 ページ

ISBN:978-4-8443-9693-2

発行:インプレス R&D

<< 発行主旨・内容紹介 >>

1990年代半ばから普及し始めたデジタルカメラ。今や、「カメラといえばデジタルカメラ」というほどに浸透していますが、写真は長い間、フィルムや印画紙をベースとした銀塩写真のシステムで成り立っていました。

この銀塩写真のシステムは、インターネットなどのデジタルの世界における活用には馴染みにくいものの、多くの写真愛好家がフィルムに記録されている情報を将来に向けてデジタルデータとして残したい、活用したいと思っていることでしょう。

その一方で、デジタルカメラから初めて写真を楽しむことを経験した方が、フィルムを用いた表現に惹かれているという話も聞かれるようになりました。フィルムが、過去の貴重な画像遺産として存在しているだけでなく、新しい表現の手段としても利用されています。

そのような中、ニコンのデジタル一眼レフカメラ「D850」にネガフィルムデジタイズという機能が搭載されました。単にフィルムをデジタル化するだけでなく、処理が難しかったネガフィルムの色や階調の反転などをカメラがやってくれるようになったことで、全体の作業が格段に楽になりました。

本書は、フィルムカメラで撮影されたフィルムを、デジタルカメラを用いてデジタイズする方法を紹介した一冊です。ニコン D850 のネガフィルムデジタイズ機能に加え、ソフトウェアを使用したネガポジ変換もわかりやすく説明しています。これからフィルムデジタイズを楽しみたい人におすすめの解説書です。
(本書は、次世代出版メソッド「NextPublishing」を使用し、出版されています。)

第2章 フィルムを撮影する機材

第2章 フィルムを撮影する機材

この章では、デジタルカメラを用いてフィルムを撮影し、デジタイズするのに必要な機材を紹介します。

2-1 撮影機材について

フィルムを撮影するための機材には、デジタルカメラ、マクロレンズ、フィルムを保持するアクセサリ、光源などがあります。さらに、撮影作業中の画像や撮影した結果の画像を大きく表示するためのPCモニターやテレビ、それらとカメラをHDMIで接続するためのケーブルがあると便利です。

■フィルム撮影のための機材 (必須)

機材	ポイント
デジタルカメラ	35mm判などのフィルムをデジタイズしてA3程度のプリントをするのが目的なら2000万画素あればよい。
マクロレンズ	被写体のフィルムが画面いっぱいになり撮影できるなど、等倍撮影まで可能で画角範囲が広いレンズ。
フィルム保持アクセサリ	マウントされたフィルムやストップフィルムを保持し、レンズに対する位置が固定できるアクセサリ。
光源	太陽光以外の光、あるいは演色性のよい光源、写真用のフライトボックスなど。

■フィルム撮影のための機材 (あるとよいもの)

機材	ポイント
PCモニターやテレビ	撮影画像を大きく表示できるディスプレイデバイス。テレビは画質の演出が過ぎないように設定しておくこと。
HDMIケーブル	カメラとPCモニターやテレビを接続するためのケーブル。

2-2 デジタルカメラ

フィルムをデジタイズするには、まずデジタイズの対象となるフィルムを画面いっぱいに写すことができるカメラとレンズのシステムが必要です。

画面のサイズが36mm×24mmの35mm判フィルムをデジタイズした場合、36mm×24mmの範囲を画面いっぱい撮影できるカメラとレンズのシステムということです。

コンパクトタイプのデジタルカメラでもマクロ撮影の機能が充実していますから、製品によってはコンパクトタイプでも35mm判のフィルムデジタイズが可能です。しかし、フィルムに記録されている画像情報は、できるだけ高画質でデジタル情報として取り出したいものです。それには、解像度だけでなく色情報や、明るい部分から暗い部分までの階調情報をしっかり引き出すことができるデジタルカメラが望ましいため、撮像センサーの画素サイズが大きい一眼レフカメラやミラーレスなどのデジタルシステムカメラを推奨します。

ところで、カメラの機種を選択するとき、多くの方が気にされるのは画素数だと思います。D850のような4500万画素を超える高画素機を用いた方が、得られるデジタル画像から大きなプリントをしたりトリミングする場合に余裕があるのは事実です。本書ではD850を例に説明していますが、A3程度のプリントが目的であれば、2000万画素でも十分です。さらに、A4サイズまでのプリントやWEBで公開するのが主な用途の場合

第4章 フィルムデジタイズアダプターES-2

第4章 フィルムデジタイズアダプターES-2

フィルムデジタイズアダプターES-2の取り付けについて説明しています。

4-1 各部の名称と構成

■D850 + AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED + ES-2



① 62mm用アダプターA

レンズとES-2本体の間に使用するアダプターです。上の画像の「62mm

用アダプターA」は「AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED」用です。「AI AF Micro-Nikkor 60mm f/2.8D」には「62mm用アダプターB」を使用します。

DXレンズの「AF-S DX Micro NIKKOR 40mm f/2.8G」にはアダプターは不要です。レンズに直接ES-2本体を取り付けます。

■AF-S DX Micro NIKKOR 40mm f/2.8GへのES-2の取り付け



② 固定ネジ

画角調節リングを固定するネジです。

③ 画角調節リング

リングを回してフィルムがセットされたホルダーの傾きを調節したり、リングを前後に動かして拡大率を調節します。

④ 拡散板

光源の光をフィルム全体に拡散します。

第5章 D850 のネガフィルムデジタイズ機

第5章 D850のネガフィルムデジタイズ機能

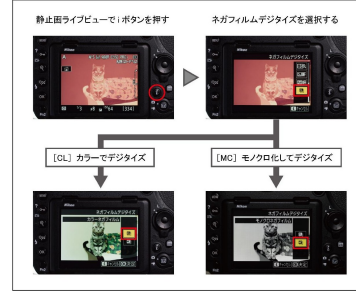
この章では、ニコン D850 に実装されている「ネガフィルムデジタイズ」の使い方について説明します。

5-1 ネガフィルムデジタイズの概要

D850 に搭載されたネガフィルムデジタイズは、カラーネガフィルムやモノクロネガフィルムからネガ画像をポジ画像に変換し、JPEG 画像として記録できる機能です。

測光モード、ホワイトバランス、ピクチャーコントロールなどのさまざまな撮影設定項目をカメラが自動的に設定しますので、とても簡単な操作でネガフィルムをデジタイズできます。

■ D850 でカラーネガフィルムをデジタイズする流れ



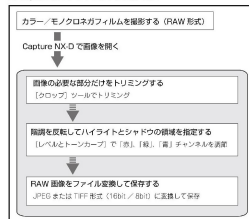
第8章 Capture NX-D でネガをポジに変換する

8-2 Capture NX-D でのネガポジ変換の流れ

Capture NX-D でのネガポジ変換は、画像を反転させる前の準備と画像反転処理の2つの作業をします。厳密に言えばネガポジ変換は画像の反転処理を指しますが、よりよい結果を得るために反転前に準備が必要ということになります。

準備は、画像の余分な部分を切り取るトリミングです。反転処理にはトーンカーブを使用します。

■ Capture NX-D でのネガポジ変換の流れ



8-3 カラーネガフィルムのネガポジ変換の基本的な手順

ここでの作業は、「7-2 カラーネガフィルム撮影のためのカメラの設定」にしたがって、RAW 形式で記録されたカラーネガフィルムの画像をもとに進めます。

ネガポジ変換は、簡単に説明すると「ネガポジ変換させる領域を特定」

し、「赤 (R)、緑 (G)、青 (B) の各チャンネルの階調を反転させ、ヒストグラムを見ながら階調情報が存在する範囲を指定」するだけと言えます。

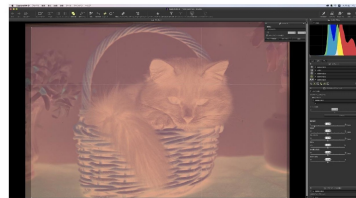
手順1 ネガポジ変換する領域をトリミングする

ネガポジ変換する画像を表示させたら、[クロップ] ツールでネガポジ変換する領域 (切り出す領域) を指定します。[クロップ] ツールを使用するには、メニューバーの [クロップ] をクリックします。

■ メニューバーの [クロップ]



■ 領域の指定



領域を指定したら、[クロップ] パレットの [適用] をクリックします。これでクロップ (ネガポジ変換する領域の切り出し) は完了です。

<< 目次 >>

はじめに

第1章 フィルムデジタイズとは

第2章 フィルムを撮影する機材

第3章 フィルムの種類とデジタイズの考え方

第4章 フィルムデジタイズアダプターES-2

第5章 D850 のネガフィルムデジタル機能
第6章 カラーポジフィルムの撮影
第7章 カラーネガフィルム／モノクロネガフィルムの撮影
第8章 Capture NX-D でネガをポジに変換する
第9章 Photoshop CC でネガをポジに変換する
第10章 ニコンデジタルシステムカメラの設定
Q & A
おわりに

<< 著者紹介 >>

山野 泰照(やまの やすてる)

写真家、写真技術研究者。1954年、香川県生まれ。1970年代から天文雑誌での作品発表や記事の執筆を行う。

2000年以降、デジタルフォト、デジタル天体写真に関する発表や記事を多数手掛け、著書として「デジカメではじめるデジタルフォトライフ」、「驚異! デジカメだけで月面や土星の輪が撮れるーニコン COOLPIX P900 天体撮影テクニク」などがある。2017年までカメラメーカーに勤務したのち独立。

一般社団法人日本写真学会会員(SPIJ)、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫会員。

<< 販売ストア >>

電子書籍:

Amazon Kindle ストア、楽天 kobo イブックスストア、Apple Books、紀伊國屋書店 Kinoppy、Google Play Store、honto 電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp、三省堂書店オンデマンド、honto ネットストア、楽天ブックス

※ 各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

※ 全国の一般書店からもご注文いただけます。

【インプレス R&D】 <https://nextpublishing.jp/>

株式会社インプレス R&D (本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井芹昌信) は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishing を使った「インターネット白書」の出版など IT 関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479) を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「旅・鉄道」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp